

小木の子 われら

校 区 内
全 戸 回 覧

令和2年12月24日発行

一緒にいるからこそ生まれるよさ

校 長 齋 藤 光 夫

コロナ禍で延期していた運動会や規制した中で行われた文化祭・学習発表会・PTAバザーなど、例年とは大きく異なる2学期が終わりました。保護者、地域の皆様の心温かいご理解とご協力があったの教育活動でした。心より感謝申し上げます。

さて、本日の終業式では、力を合わせることで豊かな心が育つことを伝えるため、例えとして、音楽のステレオ効果を体感してもらいました。

子どもたちに身近な唱歌を2パートに分けて聞かせました。左右別々のスピーカーに分けて聞くと何の曲か分からないのに、同時に流すとよく知っている旋律が聞こえてきます。

この技法は、チャイコフスキーの交響曲第6番「悲愴」の第4楽章を真似たものです。第4楽章の始まりは、オーケストラの左側の位置で第1バイオリンが(ラ、レ、#ファ、シ、#レ、シ)を演奏します。右側では第2バイオリンが(ミ、#ソ、ド、#レ、ラ、レ)と演奏します。この2パートが合わさると、不思議なことに、この曲の旋律(ミ、レ、ド、シ、ラ、シ)が聞こえてきます。旋律を奏でる人が一人もいないのに、旋律が響き渡るのです。一説には、旋律を一人(1パート)で演奏する方法だと演奏家の独りよがりや表現されてしまう心配があり、それを避けたのではないかとされています。私なりの解釈で言い換えれば、自分勝手な世界ではなく、仲間とともにいるからこそ作り出せる奥深い世界があることをチャイコフスキーは教えてくれているように思います。



不思議な音楽の体感と合わせて、次のような話をしました。

皆さんは、友達と一緒に学校生活を送っています。そして、新しいことをたくさん知り、いろいろなことができるように成長しています。そこには、一人一人の頑張った姿があります。しかし、どんなに頑張っても一人ではできないことがあります。それは、一緒にいるからこそ生まれる雰囲気を感じたり、自分とは違う見方や考え方に会ったりすることです。家族や友達との生活は、喜びや楽しさ、痛みや悲しさなどの気持ちを一緒に分かち合うことができ、私たちの心をより豊かにしてくれるのです。お正月は、家族の中での役割を意識して、一緒にいるからこそ生まれるよさをたくさん作り出してください。

この1年のご厚情に感謝し、来る年が皆様にとって良き年となりますよう祈念いたします。